

— 新宿文化センターの在り方と運営方針について —

開館時は都内でも有数の音楽ホールであったが、施設をめぐる状況が大きく変化した

課題:①同種のホール施設の開業 ②色々な使い方をされ館の顔が見えない ③最近の演目に施設・設備が追いつかない ④ニーズの変化 ⑤稼働率の向上...

その他考慮事項:施設の老朽化の進行、特定天井対策、区の施設利活用方針(平成27年度以降)

新宿文化センターに必要なこと

状況を踏まえて、ポジションを明確化

戦略

文化センターのイメージの確立

実現に向けて、ポジショニング・館のイメージをどうするか？  
選択と集中

ポジショニング / イメージ	主な実施内容	想定されるメリット	想定されるデメリット
①プロ対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽団等のフランチャイズ化</li> <li>・楽団等との業務提携</li> <li>・芸術監督、アドバイザー等専門家の活用</li> <li>・優れた公演の誘致</li> <li>・音楽の殿堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド力向上</li> <li>・イメージアップ</li> <li>・区民の誇りとなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演目に対応した施設の専門性の向上が必要</li> <li>・専門性の高い職員が必要</li> <li>・利用目的と利用制限の見直しが必要</li> <li>・投資が必要</li> <li>・サントリーホール、ミュージア川崎等他の優れたホールとの競合</li> </ul>
②アマチュア対象 (区民ほか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸館特化</li> <li>・営業強化</li> <li>・ITを活用しての予約の容易化</li> <li>・利用時間区分の見直し</li> <li>・練習利用割引制度の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化芸術振興に資する</li> <li>・稼働率向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入減少(練習利用は利用料減額)</li> <li>・館の自主事業がなくなる。</li> <li>・会議室等の防音性の強化が必要</li> </ul>
①と②の間の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民参加型の公演の実施</li> <li>・地域等とのコラボレーション</li> <li>・ITを活用しての予約の容易化</li> <li>・利用時間区分の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館時の基本方針「区民総合集会施設」として、様々な活用が可能</li> <li>・まちのアーカイブとなる</li> <li>・大人の社交場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館のイメージが曖昧のままイメージアップができない</li> <li>・3つの区民ホールとの使分けが不明瞭なままになる。</li> <li>・優れた公演の誘致が困難</li> </ul>

実現に向けての取組の方向性

戦術

3(1)育成の方向  
・インキュベーターになる  
・練習割引の拡充

3(2)専門家の活用  
・芸術監督  
・アドバイザー  
・プロモーター

3(3)職員の育成、配属等  
・専門性の高い職員の育成  
・職員配置の工夫

3(4)運営の充実等  
・ランチタイムコンサートの拡充  
・神楽等の伝統芸能の上演  
・演劇の増加  
・友の会の活用  
・ネーミングライツ  
・寄附を募る  
・受益者負担の適正化

4(1)コラボレーション/参加型公演  
・地域とプロの連携公演  
・他機関、教育機関との連携  
・アウトリーチ活動の展開  
・ミュージアム等とのコラボ  
・フランチャイズ化  
・楽団等との事業連携

5(1)施設の充実  
・人々の集いの場所  
・文化継承の場  
・地域文化のアーカイブ

5(2)パイプオルガン  
・維持/活用の方向性  
・魅力の発信  
・維持費用の確保  
・撤去方向性  
・館の演目との親和性